

厳島いつくしま
(浅野坤山あさのこんざん)

遙はるかに 鼈背こうはいを 観みれば 一いち 蓬萊ほうらい

瓊瓊あいあいたる 雲煙うんえん 瑞台ずいだいを 擁ようす

月つきは 長廊ちやうろうに 落おち 湾上わんじやう 静しずかなり

萬燈まんとうの 星列せいれつ 波なみを 照てらして 来きたる

解説 広島県廿日市市宮島町にある島。瀬戸内海西部、広島湾の北西部に位置する。通称は宮島みやじま。この厳島の景観を述べた詩。

語釈 ※厳島Ⅱ広島県宮島町にある島。日本三景の一つ。神社は平家の守護。 ※鼈背Ⅱ海亀の背。ここでは島の形容をいう。

※蓬萊Ⅱ仙人が住むという伝説の島。※瓊瓊Ⅱ雲のたなびくさま。

※瑞臺Ⅱ「瑞」はめでたい 「台」は建物 ここでは厳島神社の楼台。

解釈 遠くから海亀の背のような形の島を眺めると、仙人の住むという蓬萊山のようなものである。たなびいている雲煙は、神社の楼台を覆っているかのようなものである。夜になると、月の光は長い廊下を照らし、湾の上は非常に静かである。幾万もある燈籠とうろうの明かりは、星が並んでいるように波に映って美しく照らしている。